

子宮頸がん予防ワクチンの予防接種のお知らせ

南箕輪村役場 こども課

お子さんが、子宮頸がん予防接種の標準的な対象年齢になりましたので、お知らせします。
 接種の際には、別添のリーフレット等の資料を必ずご覧いただき、ワクチンの有効性や予防接種による副反応などを十分理解された上で接種していただきますよう、お願いします。

1. 対象年齢 (標準的) 中学1年生 ~ 高校1年生相当の女子
2. 持ち物 予診票・母子健康手帳
3. 費用 無料 (全額公費負担)
※期限を過ぎてからの接種は全額自己負担 (最大9万円相当) となります。
4. 医療機関 別紙「令和7年度 予防接種協力医療機関一覧表」のとおり
※必ず事前に予約をしてください。

■ ワクチンは 「ガーダシル」 「サーバリックス」 「シルガード」 3の種類があります。

ワクチン名	標準的な接種間隔	接種回数
サーバリックス (2価)	2回目: 1回目の接種から1か月以上の間隔をあけて1回 3回目: 1回目の接種から6か月以上の間隔をあけて1回	3回
ガーダシル (4価)	2回目: 1回目の接種から2か月以上の間隔をあけて1回 3回目: 1回目の接種から6か月以上の間隔をあけて1回	
シルガード (9価)	<u>1回目を15歳になるまでに受ける場合</u> 2回目: 1回目の接種から6か月以上の間隔をあけて1回	2回
	<u>1回目を15歳になってから受ける場合</u> 2回目: 1回目から2か月以上の間隔をあけて1回 3回目: 1回目から6か月以上の間隔をあけて1回	3回

※3種類いずれも、「1年以内に接種を終えることが望ましい」とされています。

- ワクチンの効果や副反応については、別紙「子宮頸がん予防ワクチン接種について」を必ずご確認ください。
- 取り扱いワクチンは、別紙「令和7年度 予防接種協力医療機関一覧表」にてご確認ください。各医療機関へお問い合わせください。

予防接種を受けることができない場合

1. 明らかに発熱している。（通常37度5分以上）
2. 重篤な急性疾患にかかっている。
3. 予防接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある。
「アナフィラキシー」というのは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応で、吐き気、嘔吐、呼吸困難、じんましの症状が見られます。
4. 医師が予防接種を受けるのは適当ではないと判断した。

予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない場合

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気、発育障がいなどで治療を受けている。
2. 予防接種後2日以内に発熱、発疹、じんましん等アレルギーを疑う症状がみられた。
3. 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある。
4. 過去に免疫の検査をして異常を指摘された、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる。
5. 接種しようとする接種液に対して、アレルギーを起こす恐れがある。

予防接種を受けた後の注意事項

1. 予防接種の種類によってはアレルギー反応を起こすことがあります。接種後30分程度はお子さんの様子を注意深くみていただくか、医療機関とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
2. 接種後に、高熱やけいれんなどの異常がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
3. 接種当日の入浴は差しつかえありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
4. 接種当日の激しい運動は避けましょう。

子宮頸がん予防ワクチン接種後の注意事項

1. 予防接種後に失神の症状がみられることがあります。失神による転倒を防止するため、接種後の移動の際には、保護者が付き添うようにしてください。接種後30分程度は背もたれのある椅子に座り、様子をみてください。
2. 予防接種後に、広範囲に広がる痛みや手足の動かしにくさ、不随意運動（自分では動かそうと思っていないのに、体の一部が勝手に動いてしまうこと）などの多様な症状が起きたことが報告されています。

■ 健康被害救済制度について

予防接種法に基づく予防接種により重い疾病、障害、死亡等の健康被害を生じた場合には、予防接種健康被害救済制度によって、医療費の支給、障害年金の支給等が行われます。なお救済制度の対象となる健康被害は、厚生労働大臣が予防接種と疾病・障害等との因果関係を認定したものに限りです。

【保護者が同伴しない場合】

保護者同伴の予防接種が原則ですが、どうしても保護者または親族が同伴できない場合は、**保護者が同伴しない場合の予診票**を発行しますので、ご連絡ください。



【問い合わせ先】

南箕輪村役場 こども課 母子保健係
TEL：0265-98-8310

子宮頸がん予防ワクチン接種について

～予診票を記入する前に必ずお読みください～

子宮頸がん予防ワクチンの予防接種を受ける前に、この文章を必ずお読みください。子宮頸がん予防ワクチンの有効性や接種による副反応について十分理解された上で、予防接種を受けるかどうかご判断ください。

★ 子宮頸がんとは？

子宮がんには、「子宮体がん」と「子宮頸がん」の2種類があり、子宮の入り口部分（子宮頸部）にできるがんを子宮頸がんと言います。幅広い年齢層の女性にみられますが、20～30代の女性がかかるがんの中では、乳がんに次いで2番目に多いがんです。

★ 子宮頸がんの原因は？

一般的にがんの原因はわからないことが多いですが、子宮頸がんの原因はHPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルスによる感染が原因で起こることがわかっています。HPVは性交渉の経験がある女性の50%以上が、一生のうちに一度は感染するとも言われています。特に若い年代の感染率は非常に高いと言われています。

★ 日本で接種できる子宮頸がん予防ワクチンは、3種類あります。

< ワクチンの効果 >

ワクチン名	予防効果
サーバリックス（2価）	子宮頸がんをおこしやすい種類であるHPV16型と18型ウイルスの感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぐことができます。
ガーダシル（4価）	
シルガード（9価）	HPV16型と18型ウイルスに加え、ほかのHPV31型、33型、45型、52型、58型ウイルスの感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぐことができます。

< 主な副反応について >

【サーバリックス】

頻度 50%以上	注射部位の痛み・発赤・腫れ、疲労
頻度 10～50%未満	かゆみ、腹痛、筋痛・関節痛、頭痛 など
頻度 1～10%未満	じんましん、めまい、発熱 など
頻度 1%未満	注射部位の知覚異常、感覚鈍麻、全身の脱力
頻度不明	手足の痛み、失神、リンパ節の炎症 など

【ガーダシル】

頻度 50%以上	注射部位の痛み
頻度 10～50%未満	注射部位の腫れ、紅斑
頻度 1～10%	注射部位のかゆみ、頭痛、発熱
頻度 1%未満	注射部位のしこり・出血・不快感、手足の痛み、筋肉のこわばり、腹痛・下痢、倦怠感 など
頻度不明	失神、筋肉痛、関節痛、嘔吐、疲労 など

【シルガード】

頻度 50%以上	注射部位の痛み
頻度 10～50%未満	注射部位の腫れ、紅斑、頭痛
頻度 1～10%	注射部位のかゆみ・内出血、浮動性めまい、吐き気、下痢、発熱、疲労 など
頻度 1%未満	注射部位のしこり・出血・血腫、筋肉痛、関節痛、嘔吐、腹痛、倦怠感 など
頻度不明	感覚鈍麻、失神、手足の痛み など

※ 頻度は低いですが、重い副反応として、アナフィラキシー（じんましん・呼吸困難などを症状とする重いアレルギー）、急性散在性脳脊髄炎（頭痛、嘔吐、意識低下などを症状とする神経の病気）、ギラン・バレー症候群（両手・足の力の入りにくさなどを症状とする末梢神経の病気）も報告されています。

< 感染症・予防接種相談窓口 >

HPVワクチンを含む予防接種、その他感染症全般について相談ができます。

【厚生労働省相談窓口】

厚生労働省より委託されている民間業者により運営されています。

電話 0120-331-453 午前9時～午後5時（土日祝日、年末年始を除く）

【長野県相談窓口】

健康福祉部感染症対策課 感染症対応担当

電話 026-235-7148 午前9時～午後5時（土日祝日、年末年始を除く）

【ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関】

- ・信州大学医学部付属病院
- ・佐久総合病院